【土木計画学研究・講演集　No.20(1)　1997年11月】

良寛関連施設間の観光回遊行動と自治体の連携方策*

Collaborative Measures of Local Governments to Promote Activities for Sight-seeing Ryokan Facilities.*

宮腰和弘**・赤澤康之***・松本昌二****

By Kazuhiro MIYAKOSHI, Kouji AKAZAWA, and Shoji MATSUMOTO

1．研究の背景と目的

新潟県内の中越地区には、良寛に関連する史跡や施設が点在しており、主要なものだけあげても 22 を数える。自治体は、観光施設または教育文化施設として新しい施設を整備したり、観光客受け入れのために内容充実、観光の紹介宣伝を図ってきた。また、平成７年には建設省北陸地方建設局の支援を受けて「良寛ミュージアム街道」という名のもとに 11 市町村が広域的な地域づくりへの取り組みをはじめた。しかし、良寛関連施設を中心とした自治体間の連携については、ほとんどなにもなされていない。

そこで、本研究は中越地区に多く点在する良寛関連施設を回遊する来訪客の特性と意識 、周辺の観光施設、自治体の取り組み状況を調査分析し、良寛関連施設を核とした地域振興策、ならびに自治体の連携方策について検討する。

2．調査方法

以下に示す４種類の実態調査を行い、データを収集解析した。

①新潟県内在住の良寛会会員 631 名に対し郵送のアンケート調査を行い、有効回答数 383 票、61 %の回収率であった。

②良寛関連の主要施設である五合庵（分水町）、良寛の里美術館（和島村）、良寛記念館（出雲崎町）の３カ所で、来訪者に対するヒアリングによるアンケート調査を行い、３施設合計で 338 票の有効回答を得た。

③良寛関連施設のある自治体、９市町村に対し良寛を中心とした観光への取り組みについてヒアリング調査を行った。

④ヒアリングを行った自治体が発行しているパンフレット等情報発信手段の調査、及び道路に設置されている看板標識の状況調査を行った。

3．来訪客の回遊行動と意識

（１）良寛会会員の回遊状況

有効回答 383票、うち男性 83%、女性 27%、年齢層は 50歳以上が 93%を占め、高齢層が多い。居住地では県内の上越地区が４%と低く、下越と中越で 96%と偏っている。特に新潟市、西蒲原郡、三島郡に多く居住している。また、施設来訪時には知人友人と訪れる場合が最も多く 40%を占めた。

①来訪経験のある施設

来訪経験ある施設は、良寛記念館の 95%を最高に、五合庵、国上山、良寛堂、良寛の里美術館が 80%を越えている。

②来訪回数の多い施設

来訪回数の多い施設は、来訪経験のある施設と比較して良寛の里美術館が少なくなっている。展示物が中心であるため繰り返し訪れる魅力が弱いと考えられる（図－１）。

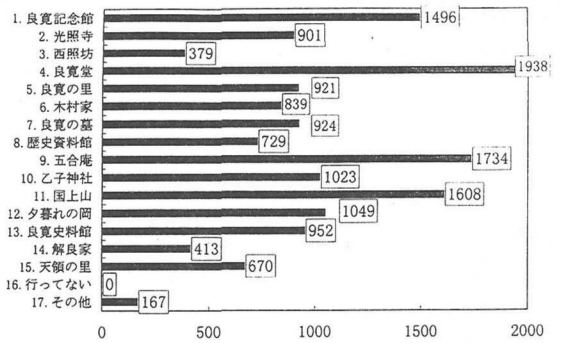
③来訪時の回遊状況

良寛会会員の施設来訪時の回遊状況では、良寛記念館、五合庵、国上山、良寛堂がよく選択され、出雲崎町と分水町に大きな２つの施設群が存在することがわかる。そして上記の施設がその核施設となっている。また、和島村と与板町の施設が回遊に加わっている。

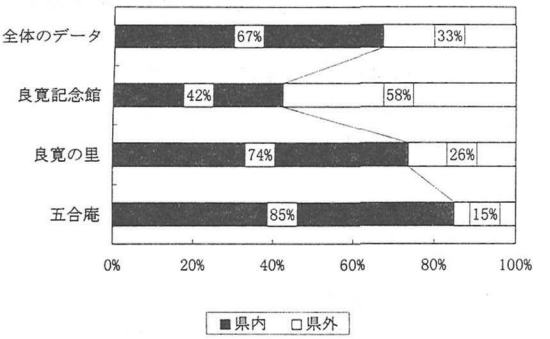
（２）施設来訪客の状況

３施設の来訪客については、運転者を中心にヒア

*ｷｰﾜｰｽﾞ：観光・余暇、意識調査分析
** 正会員 工博 長岡工業高等専門学校環境都市工学科
（〒940 長岡市西片貝町 888
TEL0258-34-9280、FAX0258-34-9284）
*** 工修 警察庁情報通信局四国管区
**** 正会員 工博 長岡技術科学大学環境・建設系
（〒940-21 長岡上富岡町 1603-1
TEL0258-47-9615、FAX0258-47-9600）



図－１　施設来訪のべ回数



図－２　来訪客の県内居住割合

リングを行ったため、回答者は男性が 80%、女性が 20%となったが、回遊行動に影響は考えられない。年齢層は、40代以上で 94%、50代以上でも 80%をしめ、比較的高い年齢層が多い。

居住地は、図－２のように全体の３分の２が県内在住者である。五合庵では 85%、良寛の里美術館では 74%と県内在住者が多いが、良寛記念館は県外者の割合が 71%で高い。 また、図－３からわかるように五合庵では、リピーターの割合が 66%と高くなっている。良寛記念館は、県外者割合が多く、宿泊してくる場合も多いため回遊の状況は様々であるが、初めての場合が多くなっている。良寛の里美術館は、４割がリピーターとなっている。

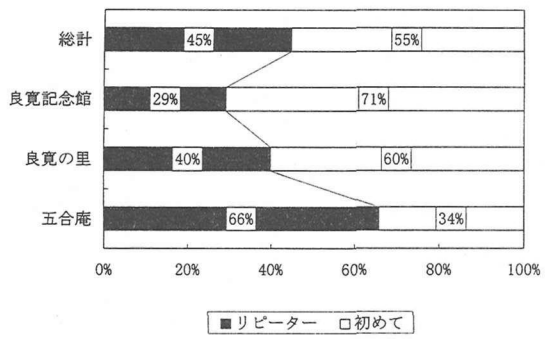
（３）周辺観光施設との回遊

表－１のように周辺の主要観光地では、平成６年度の入り込み数が弥彦神社、寺泊鮮魚センター、寺泊水族館でそれぞれ約 130万、82万、21万となっており、良寛会のアンケートから見ても良寛関連施設来訪者の約 80%が周辺の観光施設と回遊を行っている。

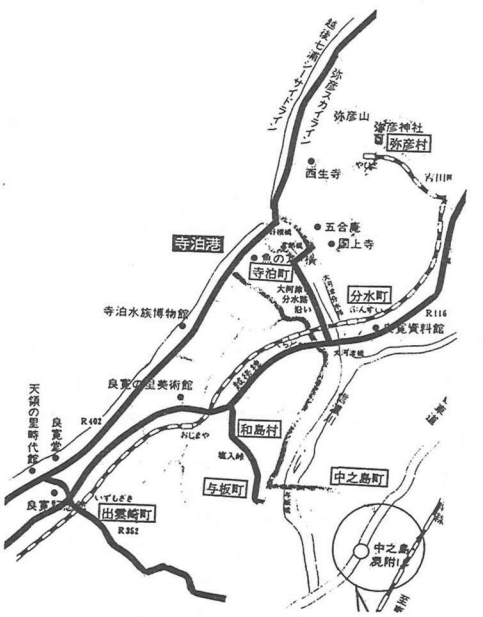
良寛関連施設では、平成６年五合庵及び国上寺が13万５千人、良寛記念館が約７万人の入り込みとなっている。良寛関連の施設は特殊性が強いものの、これら周辺の主要観光地から 10%程度の回遊が見込めれば、その入り込み数は、現在から倍増することになる。

（４）来訪時の利用ルート

施設利用時の移動手段は、良寛会会員のアンケートでも自家用車利用者が 77%を占めている。利用の多い道路は、国道 116号(87%)、国道 402号(61%)、



図－３　来訪客のリピーター割合



図－４　良寛会会員の利用ルート

表－1　周辺主要観光施設の入り込み数

順位	名称	新潟県（千人）	名称	良寛会（人）
1位	弥彦神社	1293	良寛記念館	359
2位	鮮魚センター	824	五合庵・国上寺	347
3位	寺泊水族博物館	209	良寛の里美術館	323
4位	五合庵・国上寺	135	天領出雲崎時代館	252
5位	天領出雲崎時代館	91	弥彦神社	241
6位	良寛記念館	69	鮮魚センター	204
7位	良寛の里美術館	46	寺泊水族博物館	91

大河津分水路沿いの県道(63%)、塩之入峠(49%)、国道 352号(39%)の順となっている。来訪施設によって利用道路に差はあるものの、ほぼ同じ傾向が見られた（図－４）。

国道 116号と国道 402号を結ぶ道路をどのように整備、利用するかが課題であり、特に国道 352号の整備がネットワーク上必要と思われる。

（５）施設整備に対する要望

良寛会会員では、展示内容の充実(50%)と案内標識の整備(37%)の２つが要望する整備内容の主なものとなった。展示内容は、リピーターの多い会員の場合には特に要望が大きいと考えられるが、案内標識についてはそれにも関わらず、比較的高い値を示している。

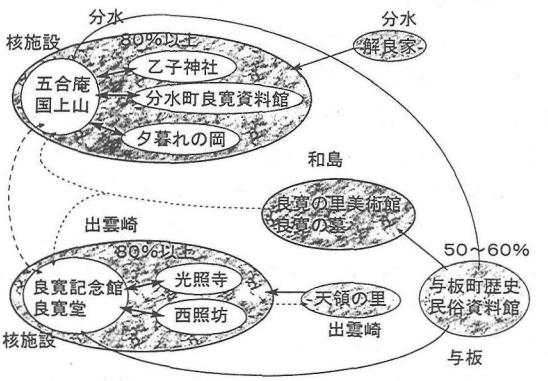
このことから考えて比較的アプローチの多い国道116号と 402号を中心に、案内標識をきちんと整備していくことが必要と考えられる。

また、高齢者が比較的多い割には、施設に対する福祉面からの整備要望は少なかった。

（６）利用した情報メディア

良寛会会員の場合は、良寛会会報(85%)、良寛関連書籍(36%)、等専門の情報メディアによるものが多い。一般来訪者の場合は、最も多いのが「家族、知人友人からの人伝て」(33%)、次が「近くを通った」(29%)となっており、偶発的な理由で立ち寄る場合も多いことがわかる。良寛会会報などの専門の情報は別として「人伝て」の場合、実際に来訪した人の印象やパンフレット等の情報によると考えられる。パンフレットのみからの情報で来訪した場合は少ないが、このような「人伝て」も考慮する必要がある。また、「近くを通った」というような偶発的な場合には、看板や案内標識などのもつ意味が大きいと考えられる

（７）まとめ



図－５　回遊と施設群

来訪者は比較的高齢者が多く、年齢構成が偏っている。今後は、年齢層の拡大を考え、子供や若青年層に対してどのような広報活動を行っていくかが問題となる。

回遊ルートについては、出雲崎町と分水町に２つの大きな施設群があり、その他主なものとしては和島村、与板町の施設がある（図－５）。しかし、施設群相互の回遊利用はされていない。その理由は、①ＰＲも含めて市町村単位での広報、施設整備が中心だったこと、②回遊する日程上、半日もしくは１日だと良寛関連の施設群のみを回る目的でない限り、２つ以上の施設群を回るのは時間的に難しいこと。これは、施設群の点在と接続道路状況にも関係するといえる。

宿泊施設との関連については、１日観光の場合と異なり、宿泊地との関係を考慮して考える必要がある。来訪者アンケートでは、県外客が全体の 33%、良寛記念館では 71%を占める。また、宿泊客は、１泊が 22%、全体で 33%となっている。回遊における分水群での中心、五合庵、国上寺は、県内客がほとんど(85%)でリピーターの割合も 66%と高い。

一方、出雲崎群の中心、良寛記念館は、県内客は42％と少なく、リピーターも 29％しかない。和島村の良寛の里美術館は、両者の中間の状況を示している。

これらのことを考慮して、特に県外客に対しては、核施設群及び宿泊施設の間で各自治体が協力して情報提供を行う必要がある。

4．自治体の取り組み

（1）自治体の情報発信

現在の良寛施設、資源に対する自治体の取り組み姿勢は、その施設資源の状況により異なるが、積極的にそれらを利用し観光の紹介宣伝を行っているのは、出雲崎町、分水町、和島村の３町村である。

今回ヒアリングを行った９市町村の情報発信は、①パンフレットの発行及び他自治体、施設への配布、②新聞雑誌でのＰＲ、③旅行会社、バス、タクシー会社へのＰＲ、などがある。

パンフレットの発行については、それぞれの施設で行われている場合が多く、担当部署が観光担当課とは限らない。そのため施設ごとのパンフレットと町村の観光パンフレットが存在する。また、印刷部数についてもそれぞれの自治体で違いがあり、県を除く他の市町村に対するパンフレットの配布は、出雲崎町を除くとほとんど行われていない。また、町村が共同で制作したものは、数年前に三島郡北部分水観光連絡協議会が作成したものだけである。各町村制作のパンフレットも自町村のマップ等が主で、周辺町村に配慮したものは少ない。

対県外ＰＲについては、県が東京、大阪で行っているものを利用している他はみられない。新聞雑誌の利用は、弥彦村、岩室村などで利用があるが、良寛に関連するものではない。旅行会社等については、パンフレットの配布施設ＰＲを行っている。インターネットの利用は、岩室、弥彦、分水、与板、柏崎で行っているが、良寛に関連したＰＲは、分水町、与板町のみである。

（2）観光協議会

良寛に関連した市町村で観光を目的とした協議会連盟が表－２のように組織されている。良寛について最も中心となる協議会は、「三島郡北部分水観光連絡協議会」である。これまで協議会では、共通の広域観光パンフレットの作成、東京での県の観光ＰＲへの共同参加などを行ってきた。しかし、近年の活動状況は低調である。

表－２　協議会の状況

連携名	岩室	弥彦	分水	寺泊	和島	与板	出雲崎	柏崎	それ以外
弥彦地区観光連盟	○	○	○	○					新潟、燕、吉田
三島北部・分水観光連絡協議会			◎	◎	◎	◎	◎		
佐渡弥彦対岸地域観光開発協議会	○	○	○	○	○		○		畑野、巻、赤泊、真野、羽茂
弥彦・岩室・寺泊地域観光協議会	○	○		○					

5．まとめ

良寛関連施設では、主な回遊施設群内部での利用が多いものの、他の回遊施設群との広域間利用はあまり多くみられない。その原因としては、利用ルートの整備の不備、利用ルート上での標識の不足、施設群間の情報提供の不足などがあげられる。今後広域での利用者を増加するために関連自治体の連携をはかる必要がある。その方策としては以下のようなものが考えられる。

①回遊核施設での情報発信

良寛記念館等の核施設では、関連施設や関連自治体の観光案内パンフレットが容易に入手できるようにするとともに、目的に応じたルートの情報提供ができるようにする。また、道の駅でも利用者に情報提供できるようにする。

②案内看板や標識の整備

利用の多い国道 116号、402号から各施設への案内看板や標識の整備を行うとともに、標識や案内看板の意匠の共通化を図り分かり易くする。また、各施設では、良寛関連施設の分布を示す共通の案内地図を設置する。

③施設間のアクセス道路の整備

国道 116号、402号と接続する施設間の道路、特に国道 352号や県道の整備を行い、関連施設間の移動を容易にする。

④広域観光協議会の活性化

以上のような方策を進める上で、関連自治体間の密接な協力が必要となる。そのためには、組織されている広域観光協議会活動の活性化をはかり、各種方策を積極的に実行しなければならない。特に良寛と関連の深い自治体がリーダーシップをとっていかなければならない。